

令和4年度 事業計画

社会福祉法人 豊岡市社会福祉協議会

令和4年度 事業方針

少子高齢化、人口減少、社会構造の変化等により、地域・職場といった生活のさまざまな場において、人と人とのつながりが希薄になるなど支え合いの基盤が弱まっています。また、地域福祉活動の担い手不足や8050問題、ダブルケア、ヤングケアラー等、地域や家庭が抱える課題が複合化・複雑化し、解決困難な課題が増えています。

これらの状況に対応するため、国では子ども・高齢者・障がい者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる「地域共生社会」を実現することを掲げています。これは、支え手側と受け手側に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、福祉などの地域の公的サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる仕組みを構築するものがあります。

このような中、新型コロナウイルス感染拡大が今もなお続いています。コロナ禍で顕在化・深刻化した社会的孤立や生活困窮課題に対し、新たな給付金や生活福祉資金特例貸付の対応が行われましたが、改めて暮らしを支えるセーフティネットのあり方が問われることとなりました。

そこで、豊岡市社会福祉協議会（以下「豊岡市社協」という。）と豊岡市が、豊岡市地域福祉計画（2022年度から2026年度までの5年間）の策定を一体的に行い、住民、関係機関、市社協、市等がめざすべき方向性を共有し、それぞれの役割のもと、連携・協働し、地域福祉を着実に推進していきます。

豊岡市社協は、平成25年度から経営状況が悪化しており、『第2次基盤強化計画』、『中長期経営計画』に基づいて、介護サービス事業の健全化、人材育成、地域課題を解決するためのネットワークの構築に取り組んでいます。なお、今年度は、『第2次基盤強化計画』及び『中長期経営計画』の中間報告の取りまとめを行い、計画の達成に向けて役職員一丸となって取り組みます。

また、昨今頻繁に発生している豪雨災害等の大規模災害に備えるべく、行政・社協・社会福祉法人・行政区・地域コミュニティ組織等の関係機関との連携・協働による支援体制の強化を図ります。

8050問題：80代の親とひきこもり状態の50代の子が同居する世帯の孤立化・困窮化に伴うさまざまな問題。

ダブルケア：育児と介護を同時期に担うことで、育児と介護の両方の責任や負担が重なること、またそうした状態にあること。

ヤングケアラー：病気や障がい、精神的な問題などを抱える家族の介護や世話を担う18歳未満の子どものこと。

基本理念

「一人ひとりが つながり 支え合う 安心な地域づくり」

使 命

1. 多様なネットワークの構築と、住民主体の地域福祉を推進する。
2. 住民がその人らしい豊かな在宅生活を送るための支援を行う。
3. 確固たる組織経営を構築する。

重点的取組 ※ () 内は関連ページ 下線のある項目は新規事業・取組

1. 「第2次基盤強化計画」及び「中長期経営計画」の達成状況を確認するために中間報告を行い、大幅な赤字からの脱却を図り、持続可能な社協をめざすため、経営基盤の強化を図ります。また、職員同士のコミュニケーションをさらに深め、信頼関係を再構築することで計画を達成します。(P4)
2. 地域福祉・生活支援拠点ぐるらの経営再建、地域住民の交流の場、相談拠点機能の強化を図り、利用者の在宅生活の継続の支援を展開します。(P5)
3. 行政区圏域での支え合いの地域づくりに向け、住民の集いの場づくり（ふれあいいいきサロン等）、見守り活動、話し合いの場づくり（福祉委員会等）を地域住民と協働しながら推進します。(P6)
4. 地区圏域での地域福祉活動実践者、地域コミュニティ組織、介護事業者、民間企業等で構成される「協議体（地域サポート会議）」による地域課題の集約、支え合い体制の構築に取り組みます。(P6)
5. 地域の支え合い活動の様子を動画等で発信することで、地域福祉活動の意識を高め合うことの大切さを共感してもらえる機会をつくれます。(P7)
6. 福祉委員活動のモデル行政区の研修会での実践発表や、区長・民生委員等との連携強化を通じて、福祉委員が役割を発揮できる基盤づくりを進めます。(P7)
7. 災害ボランティアセンターの機能強化と多様な主体の連携促進のため、関係機関との協定締結や協定している団体との研修会を実施していきます。(P7)
8. 高齢者、障がい者の外出（移動・交通）の課題解決に向けて、行政、交通事業者、福祉サービス事業者、観光事業者、地域コミュニティ組織等と検討していきます。(P8)

9. 総合相談センター（総合相談・生活支援センター、各地域包括支援センター、障害者相談支援事業所）は、複合化・複雑化した課題の解決に向けて、関係機関との連携を強化を図るために、ICTの導入・活用の検討を進めます。（P8）

10. 豊岡市福祉情報ポータルサイト「とよニコ」を開設し、市民ライターが福祉情報を発信することで、様々な生活課題を解決する糸口になる役割を果たします。（P12）

ICT：情報通信技術の略で、通信技術を活用したコミュニケーションのこと。

ポータルサイト：利用者がインターネットに接続したとき、一番初めにアクセスするウェブサイトになることをめざして作られた、さまざまなサービスを集めたウェブサイトのこと。

1. 組織運営体制の強化

豊岡市社協が地域福祉を推進する組織としての役割を果たしていくためには、事業運営の方向性を明確にし、組織内の情報共有・連携体制の充実が基盤となります。

地域福祉、総合相談、介護サービスの各部門間のミーティング等を通じて連携強化を図り、地域ニーズ・地域課題の解決に一体的に取り組みます。

(1) 住民ニーズ、地域課題の解決に向けた組織内連携の強化

① 地域福祉推進のための組織内協議の場の強化・連携

豊岡市地域福祉計画に位置づけられている2つの基本目標「住民の主体的な地域づくり」、「総合的・包括的な相談支援体制づくり」の確実な推進に向け、圏域（旧市町域）を軸に地域支援担当職員、相談支援担当職員、介護サービス事業所職員等が連携して取り組みます。

② 地域支援と個別支援の一体的な推進

地域の様々な課題を地域支援と個別支援の両方の視点を持って活動できる人材の育成に地域福祉課学習会、圏域ミーティング、圏域行動計画コアメンバー会議を通じて取り組みます。

(2) 目標管理による確実な組織運営、事業計画・予算目標の実行

基盤強化計画に位置つけた取組を着実に実行していくために、課長補佐以上の管理職を中心とした目標管理制度による月次単位での進捗状況の管理、評価に取り組みます。

主な重点的取組

- ▶ 支え合いの地域づくりのための行政区での集いの場、話し合いの場づくり
- ▶ 各介護サービス事業所の目標利用者数・目標収入の達成に向けた進捗管理
- ▶ 地域福祉事業の見直し、一体化の推進

2. 財政基盤・組織経営の強化

豊岡市社協が確固たる組織経営を構築し、住民のその人らしく豊かな在宅生活を守りきるためには、財政基盤の柱である介護サービスで安定的に収益を確保することが必要です。介護サービス事業所の利用者確保に向けた改善策に重点的に取り組みます。

また、法人運営や地域福祉事業の財源が不足しているため、豊岡市からの補助金に対して増額に向けた協議をすすめていきます。

(1) 中長期経営計画に基づいた取組の推進

令和元年度に策定した『中長期経営計画』（令和2年度～令和5年度）の達成状況を確認

するために中間報告を行います。また、計画に基づき、介護サービス事業を中心とした経営基盤の強化及び安定的に収益を確保できるよう取組を進めます。

- 市から譲渡、貸付を受けているデイサービスセンターの事業運営、計画的な設備の修繕、契約期間等について市と協議を実施
- 豊岡西デイサービスセンターの事業運営の方向性について検討
- 日高西デイサービスセンターの空きスペースの活用の検討

(2) 地域福祉・生活支援拠点ぐるらの機能強化

利用者の生活・価値観を大切にし、ニーズに沿った通い・訪問・泊りの介護サービスを安定的に提供することで、住み慣れた地域で在宅生活の継続を支援します。

- 紙媒体でのサービス概要の周知や相談対応に使用するリーフレットの刷新
- ぐるらの機能・サービスについてケアマネジャー、医療機関、住民への広報、周知活動の強化
- 支所、地域包括支援センターとの連携による介護・福祉に関する相談機能の強化

(3) 組織の機能強化及び運営強化

地域福祉を推進する中核的な組織として、制度改編や社会情勢の変化に対応できる組織づくりに向けてマネジメント機能の強化、住民参画による組織運営を実行します。

- 経営戦略部会、地域福祉部会、在宅福祉部会を基盤とした執行機関の機能強化及び組織運営
- 地域福祉推進委員会等を通じた地域課題の集約、組織運営への反映
- オンラインの活用による協議・会議の効率化

(4) 健全な財政運営の実践

継続的かつ安定的な社協事業・活動の実施に向け、無駄な支出を削減し、コスト意識を持った予算執行の徹底、財務体質の強化を図ります。

- 車両に関わるリース料、燃料費、保険料等の支出の削減
- 勤怠管理システムの導入の検討（休暇等申請処理、残業申請・実績集計等）
- デイサービスセンターの空調機器等の取替・修繕のための積立金の運用
- 市から譲渡を受けているデイサービスセンターの将来的な返還（建物の取り壊し）に備えた積立て

(5) 介護サービス事業の健全経営に向けた強化・充実

利用者のその人らしい豊かな在宅生活を守りきるために、財政面においても確実な収益を確保して安定的な経営の継続を図ります。

実務者研修修了者、介護福祉士、介護支援専門員、主任介護支援専門員等の積極的な資格取得による質の高いサービスの提供を実施します。

- デイサービスだより、地域コミュニティだより等による介護サービスの情報提供
- 介護サービス事業の採算性の確保に向けた目標管理による数値目標の設定、評価の実

施

- 人材確保計画を作成し、採用試験の時期の見直し、職員紹介制度の検討
- 介護サービスの実施に関する年次計画に基づく研修を通じた人材の育成
- 医療機関等との情報共有・連携の強化を図り、重度者や終末期等の利用者の在宅生活の支援の継続

3. 包括的支援体制整備・地域福祉ネットワークづくりの強化・充実

生きづらさを抱えた人、地域から孤立している人等が、地域とのつながりをつくり、支え手と受け手に分かれるのではなく、あらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく地域の中で暮らし続ける地域共生社会の実現が求められています。

豊岡市地域福祉計画において、「住民の主体的な地域づくり」「総合的・包括的な相談支援体制づくり」の2つの基本目標に基づき、包括的支援体制の構築に向け、豊岡市社協と豊岡市が連携しながら、地域共生社会の実現に向け取り組みます。

(1) 住民の主体的な地域づくり

住民主体の課題解決に向けて、エリア階層を5つ（隣近所、行政区圏域、地区圏域、旧市町圏域、市圏域）に設定し、それぞれの階層における課題共有・解決のためのネットワーク（協議の場等）を構築し、住民主体の課題解決の取組みが進むよう住民と専門職が協働します。

① 支え合いの地域づくりの推進

ア 行政区圏域

住民が交流し、つながりを深める集いの場づくり、地域の課題を共有し解決に向けた取組を協議する話し合いの場づくりを通じて、住民と協働し、地域の支え合いの仕組みづくりに取り組みます。

- 集いの場（ふれあいいいきサロン活動）のサポート
- 話し合いの場（福祉委員会等の運営）のサポート

イ 地区圏域

住民が地域課題について定期的に話し合い、事業所、団体等と協力して地域課題の解決に向けた支え合い活動を広げる「協議体（地域サポート会議）」の運営を生活支援コーディネーターが中心にサポートします。

- 地域福祉活動実践者（サロン世話役や見守り活動の実行者等）と連携した住民ニーズ、生活課題、社会資源の把握及び住民への課題提起、支え合い体制の構築
- 生活支援の担い手の発掘・育成に向けた研修会等の開催、組織化、支援活動へのマッチング

ウ 外出課題、買い物課題を通じた活動の展開

- 貸出車両の活用により住民主体の外出支援活動を拡げる支援
- バス利用により外出機会を広げる活動の支援
- 買い物支援を必要とする人を地域でサポートする話し合いの場づくり

エ 地域福祉活動の啓発

- 支え合いの地域づくり推進のための映像配信やフォーラムの開催等

オ 福祉委員活動の強化

福祉委員が区長、民生委員、民生・児童協力委員等と連携した見守り・支え合い活動をすすめ、話し合いの場（福祉委員会・見守り会議等）に参加し役割を發揮できるよう、コミュニティワーカーが働きかけと活動のバックアップに取り組みます。

- 区長、民生委員等との合同研修会を通じた福祉委員の役割の浸透、行政区内での連携体制の強化

カ 住民交流活動の充実と居場所づくりの推進

高齢者や障がいのある方、認知症やひきこもりなど生きづらさを抱えた方、子ども、子育て中の世帯の方たち等が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、住民への理解を広げ、各種サロン・サークル活動、住民交流拠点の定着・充実を図ります。

- 毎日型の住民交流活動拠点づくりの推進
- 認知症カフェの運営のサポート
- 子育てサロン・サークル、セルフヘルプグループへの助成による活動基盤のサポート
- 障がいのある方の居場所づくりの推進

② ボランティア・市民活動、福祉学習の推進

支え合い活動におけるボランティアの重要性の浸透を図り、ボランティア活動の活性化をすすめます。

児童・生徒たちが地域共生社会の実現に向けて自分たちに何ができるのかを考えることに視点を置いた福祉学習を展開します。

- 広報紙「NIKO」等を通じてボランティア活動の意義、ボランティアグループの活動を発信
- 各種ボランティア体験教室、社協出前講座の開催と積極的な広報活動の実施
- 地域住民、障がいのある当事者、ボランティア等との連携・協働による福祉教育の実施
- セルフヘルプグループの活動把握および関係構築
- 有事の際の災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練、市や関係機関等との連携体制づくりに向けた協議の実施
- 「災害時における相互協力に関する協定」を締結している豊岡青年会議所、豊岡商工会議所青年部、豊岡市商工会青年部、豊岡ライオンズクラブ、出石ライオンズクラブ、豊岡亀城ライオンズクラブとの研修会の実施

③ 多様なネットワークづくりの推進

社会的孤立や制度・サービスでは対応できない複合的な問題の解決に向けて、地域住民・市・関係機関・社会福祉法人・企業等との連携・協働に取り組めるようネットワークの構築・強化を進めます。

ア 買い物支援ネットワーク

移動販売を担う企業、行政と買い物支援の協議の場づくりを進め、買い物に困っている方への課題解決に向けて取り組みます。

- 移動困難な方の新たな移動手段を検討するため、行政、交通事業者、福祉サービス事業者、観光事業者、地域コミュニティ組織等との協議の場に参画

イ 豊岡市社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネットとよおか）への参画

既存の制度では対応できない子ども、高齢者、障がい者の地域における課題の解決に向けて、市内全社会福祉法人（23 法人 26 施設）が参画する豊岡市社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネットとよおか）を通じて、他法人とのネットワークの構築、新たな社会資源の開発に取り組みます。

（2）総合的・包括的な相談支援体制づくり

総合相談センター（総合相談・生活支援センター、各地域包括支援センター、障害者相談支援事業所）を中心に、高齢者、障がい者、生活困窮、制度の狭間にある住民や複合的な課題のある世帯等への支援に向けて、地域を基盤とした相談支援を地域住民、関係機関・団体等との連携・協働により推進します。併せて、市、社協、福祉分野の各種専門機関等が包括的な相談支援ネットワークを構築し、地域では解決できない課題への対応を行う総合的・包括的な相談支援体制を推進します。

また、関係機関等が連携し、情報共有を図り解決に向けて迅速化を図るため、ICTの購入・活用の検討を進めます。

① 総合相談・生活支援センター業務

制度の狭間や生活困窮、社会的孤立など複合的な課題を抱える方に対して、社協・市の庁内連携体制による包括的な支援体制づくりに取り組みます。

- 地域や企業と連携した就労体験、中間的就労、居場所づくり等の資源開発
- 総合相談運営会議、支援チーム会議による市と社協の横断的な連携体制づくり、生活困窮者の早期発見・早期対応の強化
- 子どもの貧困対策を通じた生活困窮世帯の早期発見、関係機関や地域住民との連携・協働による支援

② 地域包括支援センター業務の推進

重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包

括ケアシステムを推進する中核的機関として、高齢者の総合相談支援、権利擁護支援、認知症予防・支援の推進等を行います。

- 高齢者虐待の相談対応、成年後見制度の利用促進、消費者被害の防止等、権利擁護支援の推進
- 介護支援専門員への支援やネットワーク構築等の包括的・継続的ケアマネジメント業務の実施
- 認知症の正しい理解と知識の普及啓発、認知症の方やその疑いのある方に早期に関わり、適切な医療・介護につなぎ、環境を整えるサポート

③ 障害者相談支援事業所の業務

障がいのある方やその家族の住まいや就労、社会参加など、地域の障がいのある方の生活や福祉の相談窓口として、必要な情報の提供や助言、障害福祉サービスの利用支援を行い、関係機関、地域住民と協働しながら支援を行います。

④ 権利擁護体制の基盤整備

認知症や障がい等により判断能力が不十分な方が地域で安心して自立した生活が送れるよう、市・関係機関と協働し、権利擁護機能の強化、体制の構築について検討を行います。

⑤ 社協セーフティネット機能の充実・強化

資金貸付事業により低所得・高齢者・障がい者世帯の生活を経済的に支えます。貸付の相談によって発見した複合的な課題を抱えた世帯を総合相談センターや市関係各課と連携し、課題解決に向けて取り組みます。

また、判断能力に不安のある高齢者、知的障がい者、精神障がい者の福祉サービス利用や日常的な金銭管理の支援を行い、利用者の生活改善や生活困窮の予防の役割を果たします。

- 生活福祉資金貸付事業の推進
- 法外援護資金貸付事業の推進
- 日常生活自立支援事業の推進
- 緊急食料支援事業を通じた生活困窮者の早期発見・早期対応

⑥ 各種相談活動の推進

市民の生活・福祉課題を発見し、様々な生活援助や地域福祉活動につなげるため、小地域福祉活動と連携した身近な相談窓口と専門職との連携を図ります。心配ごと相談所を常設し、いつでも住民が困りごとを相談できる場づくりを整えます。また、豊岡健康福祉センターで結婚相談所を開設し、相談員間の情報共有、成婚に向けたサポート体制を充実します。

- 法律相談事業の推進
- 心配ごと相談事業の推進
- 結婚相談員の豊富な経験に基づいた結婚相談事業「Hapimari（ハピマリ）」の推進

(3) 指定管理事業

指定管理者として、豊岡市施設の適正な管理運営に努め、利用促進を図ります。

市から示されている健康福祉センターのあり方について市及び関係機関と協議を進めます。

- 豊岡市立各健康福祉センター指定管理事業（6施設）

4. 地域における利用者本位の福祉サービスの実現

地域において、利用者がその人らしく豊かに生活が送れるように、単に決められた介護サービスの供給だけでなく、既存のサービスの枠を超えて、個々のニーズを拾い上げ、的確に柔軟に対応し、例え終末期ケアが必要な状態になっても「在宅生活を守りきる」体制づくりを進めます。

(1) 在宅生活を守りきる介護サービスの実施

要介護・要支援状態にある利用者の多様化する介護ニーズに適切に対応できるよう、ケアプランの作成、居宅での身体介護・生活援助、デイサービスセンターでの入浴・食事等のサービス提供を行います。

- 居宅介護支援事業、訪問介護事業、訪問入浴介護事業、通所介護事業、小規模多機能型居宅介護事業の実施

(2) 障害福祉サービス事業の推進

障がいのある方等が、地域で自立した日常生活を送るために、障害福祉サービスの推進を図るとともに、障がいに対する理解に向けた普及・啓発活動を実施することで、障がいのある方等が地域の一員として共に生きる地域社会の実現をめざします

- 障害者総合支援法による良質なサービスの提供（居宅介護、同行援護、移動支援、障害者（児）デイサービス、障害者（児）訪問入浴）
- 市障害者事業の受託による障がいのある方等の自立生活及び社会参加の促進、障がい者理解に向けた普及・啓発活動の実施（障害者（児）スポーツ・レクリエーション教室等開催事業）

(3) 在宅福祉サービスの充実

介護予防及び在宅生活支援の充実を図るため、地域住民と協働した福祉サービスを実施します。

- 産前・産後サポーター派遣事業の受託
- 福祉用具貸与事業（介護保険外）の実施
- 介護用品販売事業の実施

5. 様々な地域課題に対応する人材育成と確保

豊岡市社協が地域福祉を推進する組織として、求められる職員像を具現化していくためには、スーパービジョン・OJT・キャリアパス等の人材育成体制を充実していくことが重要になります。

職員の資質・スキルアップ向上を図るために、役職・等級等に応じた研修体系と、研修で学んだことが業務にしっかり反映される仕組みづくりを進めます。

(1) 人事管理制度を通じた人材育成

人事管理制度を通じて、役職・等級に応じた役割の遂行、業務実績に基づいて評価を行い、給料や昇格に反映する人事管理制度を通じて、職員相互の信頼関係の強化、職員の業務へのモチベーションの向上、人材育成を図り、質の高いサービスの提供や支援活動へつなげます。

- 業務活動実績と意欲態度の適正な評価を行い、被考課者と考課者が改善点を具体的な話し合い（フィードバック面接）により人材育成ができるように指導の強化

(2) 人材の定着化、有資格者の確保

地域福祉、介護サービス、総合相談事業を安定的に推進するには社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員等の有資格者を確保することが重要になります。

専門資格取得をサポートするためのスクーリング経費や受験の交通費等を助成する資格取得制度を奨励し、人事管理制度の役割等級で必須となっている資格取得や研修受講の対象職員に受験・受講を促し、有資格者の確保を進めます。

(3) 計画的な研修体系の構築・実践、業務内容への反映

職員の資質や能力の向上を目的に、役割等級・職種に基づいた組織内部・外部研修を体系的に実施します。

研修内容が各職員の所属部署・事業所内で共有され、業務内容に反映されるよう研修内容の報告の徹底を図ります。

主な内部研修

- 管理職研修
- プレゼン研修
- 認知症VR体験研修
- SDGs研修（持続可能な開発目標）
- BCP（業務継続計画）策定研修

(4) 働きやすい職場環境づくりの整備

職員一人ひとりが組織の一員としての自覚とコスト意識を常に持ち続けながら、職員の意見を積極的に取り入れ、職員が熱意と柔軟な発想を持って業務に取り組めるよう、風通しが良く働きやすい職場環境の整備に取り組みます。

- 部署・事業所ごとに業務上の課題解決に向けた取組（ノー残業デー、ミーティングの

定例化等)の計画的な実施

- 職員の様々な思いを聞く相談窓口の充実(外部の専門相談機関と連携)
- 子育て世代グループ、資格取得に向けた勉強会等のマッチング・情報提供

6. 社協活動の見える化・透明性の確保

地域福祉活動を推進していくために、様々な場面・媒体等を通じて豊岡市社協が目ざす姿・方向性の発信機能を強化し、住民・NPO・企業・関係機関等の豊岡市社協に対する理解を図り、協力者を増やすことに取り組みます。

(1) 広報活動の促進

ホームページ等を通じた豊岡市社協の事業や活動内容、財政状況等の情報を広く発信します。また、広報紙「NIKO」の紙面の充実を図り、地域の福祉活動、まちづくり、ボランティアに関する情報など、市民が必要とする情報を掲載します。

企業、市民が参画した市内の福祉活動・人材、善意銀行等の情報サイトの充実を図り、福祉活動や善意銀行への協力者の増加を図ります。

- 広報紙「NIKO」による地域福祉活動、ボランティア活動等の情報発信
- 社協、Hapimari(結婚相談)のホームページを活用した情報発信の充実
- 社協事業・活動に関するパンフレット、マスメディア、SNS等を通じた社協事業・活動の発信
- 企業・市民との協働による豊岡市福祉情報ポータルサイト「とよニコ」の運営により、困りごとに対して共感する方を増やし、困りごとの解決につなげる

(2) 市民参画による地域福祉財源の活用の検討

善意銀行プロジェクトチームで検討を重ねた、ひきこもりの方の社会参加を促進や、経済的に困窮する世帯、ひとり親世帯の子どもの夢を叶える取組を推進します。